

令和2年度学校自己評価

鳥取県立智頭農林高等学校

| | | | |
|-----------------------------|---|---------------------|--|
| <p>中長期ビジョン (学校ビジョン)</p> | <p>「一人ひとりの生徒を大切に」を教育の根幹におき、勤労と責任を重んじ、心身ともに健康で地域産業及び社会の発展に貢献できる人材を育てる。</p> | <p>本年度 重点目標</p> | <p>(1)専門教育の充実 ~各科の授業実践及び資格取得の取組をととして、学びの質の向上を図る~ (2)学力向上 ~基礎学力の定着と授業力の向上~ (3)キャリア教育 ~進路指導の充実と職業観・勤労観の育成~ (4)こころの教育 ~規範意識の醸成、基本的な生活習慣の確立、家庭との連携~ ~自己理解・他者理解に基づいた人間関係づくりの支援、自己肯定感の育成、健やかな体づくり~ ~教育相談、特別支援教育及び人権教育のより一層の充実~ (5)地域連携の充実 ~地域の教育資源を活かし、本校の教育資源を地域に活かす、顔の見える地域連携、先輩から後輩へ、広報の拡大と充実~ (6)学校業務の改善 ~学校業務改善の取組みを進め、一人一人を大切に教育の充実を図る~</p> |
|-----------------------------|---|---------------------|--|

| 令和2年度当初 | | | | | 評価結果 (10)月 | | |
|-----------|------------------------------|---|--|---|---|----|--|
| 評価項目 | 評価の具体項目 | 現状 | 目標(年度末の目指す姿) | 目標達成のための方策 | 経過・達成状況 | 評価 | 改善方策 |
| 1 専門教育の充実 | 授業実践と資格取得の取組をとおして、学びの質の向上を図る | <ul style="list-style-type: none"> ○スーパー農林水産業士には、H29年度は2名、H30年度は4名、R1年度は0名であった。 ○資格取得の受験率・合格率を上げるために、日々の学習習慣を定着させたり、受験案内や意欲の喚起を行ったりしたが、前年度に比べ、合格率が1%減少した。 ○地域の産業界や教育機関と多くの連携事業をしているが、基本技術の習得がおろそかになっていると指摘がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「スーパー農林水産業士制度」や地域産業との連携を有効活用し、高度な知識と技術を身に着け専門性を生かした進学・就職ができる。 ○学習規律のある授業態度を育成した上で、各科の専門性を深め、専門的な知識・技能を身に付けさせる。そして、地域の産業界や教育機関等との連携では、校内では習得できない知識技術を身に着ける。 ○生徒自らが将来の目標を定め、より意欲的に学習に取組み、専門性を活かした資格取得に励んでいる。資格取得の合格率が前年度比10%以上向上している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○日々の授業実践を大切にした上で、地域の産業界や教育機関との連携を深め、社会人講師等を積極的に活用し、地域の専門家から教わることで高度な技術を習得する。 ○実践的な学習を通じて、知識や技術が習得できる授業を行う。また、他教科や地域産業等と連携し、より効果的に授業をすすめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○感染症対策で、一部地域産業等との連携事業が実施できなかったが、授業時間は例年より多く充実した学習内容であった。例年以上に充実した指導ができているという評価も見られる。 ○実践的な学習が行えており、地域連携についても授業時間を確保しつつも、過度な負担感はなく、バランスよくできている。 △支援の必要な生徒・基礎学力に課題のある生徒に対する指導の目標設定や評価が難しい。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携は一定数減少しているが、授業時間の確保が可能になり充実している。今まで地域連携が多すぎた可能性があるため、地域との連携は重要であるが、生徒の実態に即したカリキュラムを議論していく。 |
| 2 学力向上 | 基礎学力の定着と授業力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ○授業や教室環境のユニバーサルデザイン化が進められつつある。 ○「学び直し」に係る授業研究会をの実施(年2回)に加え、「授業を語る会」を年2回実施するなど職員全体が授業改善への意識が高い。 ○ICTタブレットの更新、活用環境の改善を行ったことで活用頻度が増加している。 ○本校生徒の基礎学力向上につながる手立てを検討し、実践に向けて取り組もうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○成功体験の積み重ねや学びあいのある授業、ICTを活用した授業、授業のユニバーサルデザイン化などの取組が組織的に行われており、生徒の基礎学力向上につながっている。 ○生徒の授業アンケートの結果、授業の理解度、分かりやすさや興味等が80%以上になっている。 ○「学びあい」を取り入れた授業の実施頻度が、各教員年間5回以上になっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○授業のユニバーサル化について、教職員の共通理解を図る。 ○授業研究会、授業実践報告会や各種研修会への参加をとおして、教員相互の授業力向上を図る。 ○生徒各自の特性や対人関係に配慮した「学びあい」をとおして、生徒の実状に即した学習方法を模索し授業の改革を進める。 ○学習意欲を高め、「学びあい」の活動を促すためのICT機器の活用方法を検討する。 ○「授業での具体的な取組」を作成し、統一テーマを持って全職員で取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ○年度当初の計画に沿った、教員相互の授業力向上を目的とした研修の実施ができなかった。 ○学校評価生徒アンケート結果から、学習に対し意欲的かつ真面目に取り組んでいる生徒の割合が93%。高校の振り返り学習(中学時の学習の復習)をとおして基礎学力が身に付いている生徒の割合が81%であった。 ○年度当初に、本校が目標とする学力を身に付けさせるための「授業での具体的な取組」を作成し、全職員で取り組んでいる。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○教員相互の授業力向上を目的とした研修会を実施する。 ○「授業での具体的な取組」についてのアンケート結果の検証と次年度に向けた検討を行う。 |
| 3 キャリア教育 | 進路指導の充実と職業観・勤労観の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ○本校の教育内容と関連した企業等への就職者がH29年度は19%、H30年度は34%、R1年度は26%であった。 ○インターンシップにおいても科の学習内容と関連した企業を選択する生徒が増えた。 ○専門性を活かした地域連携が進みつつある現状であるが、生徒の進路先と必ずしも合致していない。 | <ul style="list-style-type: none"> ○専門的な技術を習得して、地域の担い手として地域社会に貢献しようとする意識を持っている。 ○上級学校への進学を目指し、意欲的に専門的な資質・能力を習得し、将来の地域を担うリーダー的存在を輩出している。 ○本校の教育内容と関連した企業等への就職者および専門性を活かした進学者の割合が30%または10名を超える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の年間計画に従い、キャリアパスポートを有効に活用しながら3年間で体系化したプログラムを実践する。 ○先進校視察、上級学校への見学研修および高大連携事業を活用し意欲を持たせ、進学への意欲付けを行う。 ○生徒に社会情勢を意識させる取組みを進める。 | <ul style="list-style-type: none"> ○3年生において、本校の教育内容に関連する進路先を希望する生徒が50%と例年以上に高い。 ○3年生の就職希望者全員が県内の企業への就職を希望しており、地域社会に貢献しようとする生徒が多い。 ○全学年に「学びの基礎診断」を受ける生徒がおり、学力を把握して進路実現に向かう意識が高まっている。 △キャリア・パスポートの活用がうまくいっていない。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○3年生の進路実現が果たせるよう、努力する。 ○「学びの基礎診断」を活用して、学力向上を図る。 ○キャリア・パスポートの活用を再検討する。 |
| 4 こころの教育 | 規範意識の醸成 | <ul style="list-style-type: none"> ○指導対象の生徒数は減少しているが、指導内容は多様化しており、家庭や地域、外部機関と連携した指導体制を継続して行っている。 ○授業を含め学校内における規律が守れない等、規範意識の薄い生徒がいる。 ○生徒一人ひとりを大切に指導を心がけることで生徒理解を深め、いじめや不登校等の未然防止に努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣が身につく、落ち着いた学校生活を送るとともに授業規律が確立されている。 ○校則を遵守するとともに、端正な服装・頭髪、日頃のあいさつなど自らが行動できる。 ○社会規範や一般常識を理解し、道徳心を持って行動することができる。 ○特別指導を受けていない生徒の割合が90%以上、また、携帯マナー、交通安全に関してルールを遵守している生徒の割合は90%以上となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○毎朝登校時の立ち番で服装・あいさつ指導を行う。また、PTAによるマナーアップの取組やあいさつ運動も実施する。 ○授業や集会での授業規律・集団規律を徹底する。 ○いじめアンケートやhyper-QUを計画的に実施し、生徒が抱えている問題の早期発見に努め、生徒理解を深めながら指導する。 ○各研修会を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○カード指導等を活用し、基本的な生活習慣や授業規律の確立に努めるとともに、各グループや職員間で連携を図り生徒理解に基づいた指導に努めている。 ○特別指導を受けていない生徒の割合は90%以上、携帯マナー・交通安全に関してルールを遵守している生徒の割合は90%以上である。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒理解を深めながら、各グループ及び職員間で連携を密にして指導を継続する。 |
| | 生徒支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ○毎日の授業に規則正しく出席することができず、欠席・遅刻・早退を重ねてしまう生徒が少なからず存在する。 ○特別支援教育への理解は向上しているが、支援のためのスキル不足による困り感がある。 ○通級指導教室が関係職員と連携を取りながら円滑に実施されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりが居心地のよいクラスの中で落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○hyper-QU結果の「学級満足群」に入る生徒の割合が40%以上を維持する。 ○通級指導教室の運営がスムーズに進行し、支援の必要な生徒一人ひとりに継続した支援が行われている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○担任・関係職員と保護者、SC・SSW、外部機関と連携を密にして、生徒の支援にあたる。 ○1回目のhyper-QU結果の「学級満足群」に入る生徒の割合は53%であり、昨年の同時期(36%)より上がっている。 ○通級指導教室を予定通り実施し、関係職員と連携をとりながら実施している。 ○鳥取大学の三木先生をお招きし、特別支援教育職員研修会を実施し、教員の指導力向上に努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ○SC、SSWとの連携をより密にして生徒支援にあたる。 ○特別支援教育研修会で学んだことを生徒支援のためのスキル向上に生かす。 | | |
| 5 地域連携の充実 | 地域連携を通じた全人的発達促進 | <ul style="list-style-type: none"> ○ちのりんショップは地域に定着しつつあり、地域の方からの応援を直に感じられる場となっている。 ○地元の保育所との菜園活動や、福祉施設での実習など新たな分野での地域交流の場ができており、様々な人との関わりを学ぶことができる。 ○地域連携を教育内容に取り入れている専門科目は、科によるばらつきがあるものの、のべ23科目実施している。 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携事業の活用により、生徒に自己有用感、達成感が生まれ、積極的に学校生活を送っている。 ○地域の方との交流をとおしてコミュニケーション能力や表現力が高まっている。 ○地域連携を教育内容に取り入れる専門科目が、各科で10科目(のべ30科目)以上になっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○定着しつつあるちのりんショップをさらに改善し、生徒のコミュニケーション能力や経営感覚を育成する。 ○地域の現状や文化を理解し、将来地域を担う人材を育成する目的の科目である「地域基礎」の一層の充実を図る。 ○地域の保育園・高齢者福祉施設との園芸交流、藍染交流を行い、相手を思いやる心やコミュニケーション能力を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> ○地域連携を教育内容に取り入れている科目数 H科10科目、F科4科目、C科5科目 ○ちのりんショップの運営は軌道に乗ってきている。今後の継続・発展が期待できる。 ○地域基礎等の学習により、2年次以降の専門学習における地域連携や地域貢献への基礎が培われている。(生徒アンケート:1年生において学校で学んだ知識や技術を活かして将来地域に貢献したい76%、地域基礎の学習を通じて地域の課題に意欲的に取り組んでいる90%) | C | <ul style="list-style-type: none"> ○地域基礎に関わる教職員が、指導内容の改善を進める体制を整えていく。 |
| | 地域連携を通じた学校と地域の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> ○生徒数が少ない中、地域の木女会との技術交流、棚田の補修、格子の製作、藍染のれんの制作などの専門性の高い取組みを継続して実施できている。 ○地域連携活動の評価アンケートは91%の回答が「よい活動である」との回答で満足度が高かった。 ○地域連携活動を発信して本校の特色や魅力をPRしているが、生徒募集での効果は十分とは言えない。 ○中学生の体験入学は、参加者が前年に比べ約1割減少した。 | <ul style="list-style-type: none"> ○農業高校ならではの「ものづくり」体験や「地域交流」体験によって、個々の教員の持つ専門技術や学校の教育力が地域の活性化に役立っている。 ○生徒や教職員の専門的知識や技術力を地域に発信している。 ○地元地域へ本校の取組みが浸透し評価され、地域からの評価アンケートの満足度が80%以上になっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○本校の持っている技術力を活用し、棚田の補修、格子の製作に取組み、伝統的な文化や技術を継承し発展させる。 ○技能フェア、地域のイベント、学校祭を通して体験教室や展示即売を行い学校の専門的知識や技術を地域へ発信する。 ○各種事業で、地域の専門家を外部講師として招聘し、その技術力を本校教育へ活用するとともに、本校の教育内容の理解を促す。 | <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染対策から中学生へのPRの場がなくなった。また、技術フェア、地域イベントへの参加もほとんどできなくなり、地域の活性化に貢献できていない。 ○10月に中学校体験入学を実施したところ、昨年よりも参加は2割減少したが、参加者の満足度は高かった。(体験体験入学アンケート:満足したと回答した割合100%) ○農林祭(11/13実施予定)は、新型コロナウイルスの影響から例年より規模を小さくして実施するが、感染対策を取りながらも有意義な行事になるよう生徒会を中心に企画を練っていく。 | C | <ul style="list-style-type: none"> ○学校紹介DVDを鳥取市内に中学校に配布。(中学校長からの要望) ○中学生に向けてPRできる数少ない機会を積極的に活かす。具体的には、中学校への出前授業や学科紹介について要望には必ず応える。 |
| 6 学校業務の改善 | 校務分掌(グループ)業務の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ○職員数の減少に伴い、分掌を再編しグループ制をとっているが、業務は年々増えており、グループ長の負担は大きくなっている。グループに入らない、あるいは複数グループに関わる業務も増えてきている。 ○農場会議を農場長担当にして、専門学科に関わりとめや外部とのやりとりの窓口とし分担を明確にした。本年度は、各グループ内の業務の見直しをさらに進めている。 | <ul style="list-style-type: none"> ○グループ内で互いに業務を確認し、分担・協力するというグループ制の良さが生かされている。 ○時間外業務が、月45時間、年360時間を超える教職員がいない。 | <ul style="list-style-type: none"> ○グループの業務を年間計画に落とし込み、グループ内でスケジュールバランスをとりつつ、グループ業務の見直しを検討する。 ○教務室等の整理整頓を推進する。 ○電子データの共有とフォルダの見直しを検討する。 ○時間外業務の時間が多い職員へ、個別に縮減を呼びかける。 | <ul style="list-style-type: none"> ○時間外業務の時間が昨年よりも減少している。 ○業務の効率化を図る目的で、電子掲示板の利用などを一部進めている。 ○グループ長会議を月1回実施し、グループ間の連携を図ると共に、学校課題に対して関係する分掌が協力して対応するようにしている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○月30時間を超える職員に声をかけをし、業務内容の確認や改善に繋げる方法について相談する。 ○学校課題に対して早期に対応できるよう、管理職を中心に学校全体の現状を日々把握に努める。 |